福井大学の
特色ある取組
2025

福井大学理念 | 格致(かくち)によりて 人と社会の未来を拓(ひら)く

近代福井の礎を築いた松平春嶽公が書した本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・社会貢献等で自らの指針となる言葉です。

福井大学は、この「格致」を理念に掲げ、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。

本学所有の「格致」の額面

「格致」とは中国の古典「大学」にある「格物」「致知」を短縮した熟語です。
「格物」とは事物に直接触れ、「致知」は知識を完成させることなどとされます。

福大ビジョン 2040

- 理念を実現するための道標として、2040年に向け福井大学の未来像を具現化するために策定
- 教職員とともに理念とビジョンに基づき、共感性を高め果敢に挑戦
- ステークホルダーの方々とも共有し、繋がりを一層深化

2040年における福井大学の未来像

世界に通じる地方総合大学

- バーチャルキャンパス、オンライン教育による世界とのアクセス拡大
- 国内外の大学・機関との結びつきの強化
- 地域連携プラットフォームを通じた県内高等教育機関との協働・地域共創

社会から頼りにされる、活力ある大学

- 福井県の特徴も踏まえたひとづくり・ものづくり・ことづくり、地域医療と地域教育の拠点機能、産学官金連携活動
- 教職員・学生「ここで働くこと、学ぶことにプライドを持ち、今を活き活きと過ごす」

福井大学の未来像に向けたミッション

1 教育
- 深い実践的教養を備える卓越高度専門職業人の育成
- 学生のキャンパスライフの質向上
- 学びの母港構築による人生100年時代へ対応

2 研究
- 福井に根ざした人類知の創出
- 世界に通じる研究力とイノベーション創出
- 若手研究者の育成の実質化

3 国際化
- 世界と伍する教育研究環境の構築
- 「福井と世界を結ぶゲートウェイ」の実現

4 地域共創
- 地域活性化の中核拠点としての機能・役割の一層の強化
- 県内高校からの志願者増と卒業後の地元定着化

5 SDGs
- 持続可能な社会の実現への寄与

6 カーボンニュートラル
- 地域のゼロカーボン・キャンパスのカーボンニュートラルの実現
- グリーン人材の育成

7 経営マネジメント
- 適切な学部・大学院の体制・規模の確保
- 総力的大学経営の実現
- ダイバーシティの推進

教育学部理念

新しい時代に生きる子どもたちの未来をひらく教師をめざして

地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

学部教育

■実践型授業プログラム

協働学習支援プロジェクト、心理発達支援プロジェクト

文部科学省「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受け、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導するカリキュラム開発を進めています。実績のある探求ネットワーク事業やライフパートナー事業を活用し、子どもの主体的な学習活動を支える指導力や子どもの心に寄り添う力を、実践と理論の往還を軸とした授業プログラムと学生どうしの省察的対話を通じて養います。

■嶺南地域教育プログラム

嶺南地域の次代を担う教員をめざす学生を対象として令和４年度にスタートした地域共創によるプログラムです。嶺南地域の市町・学校や福井県嶺南教育事務所との協力のもと、１～４年次に地域を知るための講義・演習、地域での体験学習、教育実習等に取組み、教師としての探究力・革新力・共創力を培います。

「嶺南地域学Ｂ」体験学習

大学院教育

■特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ岐阜聖徳学園大学・富山国際大学が参加して、評価の高い「学校拠点方式」を軸とした３つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。

（学校拠点方式とは）

幼小中、特別支援学校等の学校現場（拠点校、連携校）を学びの場とする本学独自の教育方式。県域を越えた3大学が連合し、全国の約60拠点で学んでいます。

附属学園

■義務教育学校

9年間を見通し、未来社会に求められる資質・能力を育成しています。教科および新設した「社会創生プロジェクト」において、他学年の子どもたちとの交流活動、合同授業を取り入れながら、プロジェクト型学習を推進しています。

義務教育学校での学びの様子

■幼稚園

一人ひとりの「好き」や個性、タイミングや文脈に寄り添い、子どもが遊びを通して学ぶことを大切にしています。幼児教育と小学校教育の接続の柱として「探究」を重視し、具体的な体験と振り返りの往還のサイクルで、学びの深まりを目指しています。

■特別支援学校

12カ年を一貫とし、一人ひとりの教育的ニーズに応じた生活教育を実施しています。同時に教員はインクルーシブ教育を推進させ、通常教育の中での教育活動を支援しています。

TOPICS

令和6年度「日本型教育の海外展開」グローバルサウス諸国への教育システムの海外展開と国内還元に関する調査研究事業を開始

本学は、令和6年8月9日、文部科学省が実施する調査研究事業「令和6年度「日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）」グローバルサウス諸国への教育システムの海外展開と国内還元に関する調査研究」に採択されました。21世紀の地域学校改革と教師の協働実践を支える新たな国際協働モデルを構築するため、多重の専門職学習コミュニティを構築しながら、各国・地域における学校拠点の実践研究とそれを支える協働研究体制の高度化に取り組みます。

附属後期課程の授業を受けての意見交換の様子

医学部理念

愛と医術で人と社会を健やかに

真理を探究する知への愛 ―
人命を尊重し人間に共感する人への愛 ―

■医学教育の国際標準化

医学科では、世界医学教育連盟が定める教育の国際標準「医学教育分野別評価基準」に準拠した教育プログラムを編成し、アウトカム・コンピテンシーに基づくアウトカム基盤型教育を実施し、高度専門職業人として国際的に通用する医師・医学研究者の育成を促進しています。

■実践的な診療参加型臨床実習の実施

附属病院における診療参加型臨床実習では、本学独自開発によるICTを活用した臨床教育支援システムF.CESS（Fukui-Clinical Education Support System）を用いて、カルテ記載や指導医とのオンラインコミュニケーション、臨床記録、学生評価など臨床実習の計画・実施・評価・振り返りが同一のプラットフォームで可能なシステムを用い、臨床能力を充分備えた医師を養成しています。

附属病院スキルラボでF.CESSを利用する学生

■グローカルな看護学教育：福井から日本、そして世界で活躍できる健康科学のプロフェッショナルの育成

地球規模の視点で考え行動できる看護職者になるには、地元である福井の地域性を踏まえた暮らしや健康ニーズを理解することから始まります。福井大学独自の科目である「ふくい看護論」では地域住民、暮らしを支える職業の方々と交流を図り、看護職としての人間性の基盤を形成します。助産師および保健師教育課程（選択制）では、地域住民を対象とした健康教育を行い、科学的なアセスメント能力と人々に寄り添う姿勢を備えた看護実践ができる人材を育成します。

永平寺消防署での訓練の様子

多重事故訓練の様子

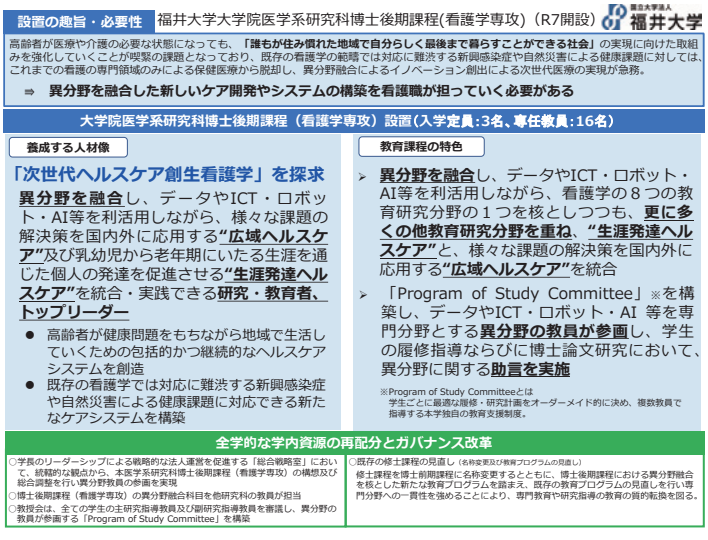
TOPICS

大学院医学系研究科に博士後期課程（看護学専攻）を設置

令和7年4月に大学院医学系研究科博士後期課程看護学専攻を設置しました。

高齢化が急速に進展するなか、「誰もが住み慣れた地域で自分らしく最後まで暮らすことができる社会」の実現に向けた取組みの強化が喫緊の課題となっています。また、近年では、既存の看護学の範疇では対応が難しい新興感染症や自然災害等による健康課題が増加しています。

そこで本専攻では、異分野を融合し、データやICT・ロボット・AI等を利活用しながら、グローカルな視点で様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”と、乳幼児から老年期に至る生涯を通じた個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”を統合・実践できる看護分野の研究・教育者、トップリーダーの養成を目指します。



工学部理念

夢を形にする技術者、Imagineerをめざして

■Global Imagineerの育成

工学部では、Imagineerの育成という理念を掲げて教育改革を推進しています。Imagineer = Imagine(心に描く) + engineer(技術者)。現在では辞書にも掲載されている英単語です。そして工学の使命は人々の安全・安心な暮らしをデザインすること。技術者が心に描くべきものの一つは、人々の暮らしです。今、想いを馳せる人々の暮らしを日本だけでなく世界へ拡張出来るGlobal Imagineerの育成に取り組んでいます。

ヒューマノイドロボットや人工知能の実践的テーマを通した創成教育

■自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

Intelligence(知能)については、AIが人間を越える日が近いのかもしれません。しかし、知能指数で測れるような知能と知性(intellect)は本質的に異なります。教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を学科横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。

産業界から実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)

■産業現場への即応、そして次世代産業の創成

現代の技術者には産業現場への即応と新たな時代を切り拓く能力が同時に求められます。産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム(実践道場)や卓越大学院プログラム(PEP:パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム)といった多様なプログラム等の実施を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。

TOPICS

工学部創立100周年を迎え、記念大会開催と新たな拠点の整備

工学部創立100周年記念大会を挙行

本学工学部は2023年12月の創立100周年を記念し、7月20日にフェニックス・プラザで記念大会を開催しました。約500名が参加し、本学卒業生で福井工業大学の市川秀和教授や工学部1期生の川上英男本学名誉教授による講演、式典、研究紹介、歴史展、キャンパス散策動画の放映など多彩なプログラムが展開され、参加者が工学部の歴史と未来への思いを共有する場となりました。

記念大会の様子

工学部創立100周年記念館完成

本学工学部は11月11日、創立100周年記念事業の一環として建設した「工学部100周年記念館」のお披露目会を文京キャンパスで開催しました。明石行生工学部長は「記念館は学生や教員だけでなく、卒業生や地域の皆様に開かれた共創の拠点として活用していただきたい」と挨拶。当日は学生による研究展示も行われ、活発な意見交換が行われました。

完成した100周年記念館

国際地域学部理念

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし

国際地域学部

多様な学びを支える3つの特色

■世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と海外留学を通した異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学を含めた多様な経験の機会を提供しています。

■地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の産業振興や地域振興の現状・課題に触れることを目的に、グループ活動を実施しています。企業や自治体等へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学び、その知見を最終報告会でプレゼンテーションします。

■工学部など他学部との連携による幅広い学識を培う文理融合型教育

現代の地域社会が抱える複合的かつ具体的な問題に対して意識を深め、その解決策提案に向けて、自然科学系の基礎的な知識や方法論を学びます。

授業風景

天保2年(1831)創業の味噌蔵「米五」でのヒアリング

国際地域マネジメント研究科(専門職学位課程)

■グローバル化した地域の課題解決に挑戦するリーダーを養成

2年間の修学の間に「地域と世界の現状と課題を知る」「マネジメント能力、リーダーシップの育成に必要な専門知識」「語学力・コミュニケーション能力」に関する授業科目を設定し、教員と院生との双方向性や院生間の討議を重視することにより、専門知識の実践的な習得を目指しています。さらに「海外実地研修」に取り組むことで国際感覚の醸成と履修科目の内容の体得を図ります。
令和６年度は、２年生はそれぞれアメリカ、インド、フランス、ドイツなどで２週間～１か月の海外実地研修を実施しました。

アメリカでの海外実地研修の様子

TOPICS

武生東高校と国際地域学部が課題解決に向けた共同授業を開催

5月15日、福井県立武生東高等学校フューチャークエスト科の2年生で、本学との共同授業を選択した生徒18名が来学し、国際地域学部3年生との意見交換に参加しました。国際地域学部と武生東高校は2022年、教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、講義・授業及び共同研究等の実施とこれに伴う学生・生徒、研究者・教員の交流を行う教育研究交流協定を締結しており、今回の来学は同協定の一環です。

生徒たちは学生たちのグループに入り、学生らが授業「課題探求プロジェクト(PBL = Project-Based Learning)」でどのような活動をしているか、どのように活動を進めているかなどをヒアリングした後、生徒自身の探究活動の課題をどう解決したらよいか意見交換を行いました。

意見交換の様子

附属国際原子力工学研究所

原子力の安全性向上、防災危機管理の向上のために

原子力関連機関が集積する地域の特性を活用し、国内外の大学や研究機関との連携により、工学部機械・システム工学科「原子力安全工学コース」の学・修一貫教育を推進し、地域課題に対応しグローバルにも活躍できる人材の育成を進めるとともに、先進的原子力科学研究、放射線利用研究、廃炉技術研究を推進しています。

■国内の連携

未来社会に向けた先進的原子力教育コンソーシアム（ANEC）の構築

複数の機関が連携してコンソーシアムを形成し、原子力分野において育成する魅力的な人材像を掲げ、共通基盤的な教育機能を補い合い、拠点として一体的に人材を育成する体制を構築し、日本の原子力に貢献する人材育成の中核となることを目指します。取組のひとつとして、福井工業大学、日本原子力研究開発機構、日本原子力発電、関西電力と連携して、「つるが原子力セミナー」を実施しています。

先進的原子力安全・防災・新型炉基礎研究

- 福井県嶺南地区をモデルとした原子力防災手法の確立と計測機器等の開発
- 新規制基準対応のための評価手法の開発
- 廃棄物減容に係る研究
- 次世代革新炉「高温ガス炉」の概念設計

もんじゅサイトの新しい試験研究炉の詳細設計への協力と産業利用促進のための組織づくり

- 中性子利用研究検討会（パイロットファーム）を立ち上げ全学的な取組を推進

シリーズ化して開催している防災危機管理の向上を目的としたシンポジウムの様子（令和6年度レジリエント社会・地域共創シンポジウムより）

先進廃炉技術研究コンソーシアム

- 地域に根ざした既設炉の廃止技術研究と事業者ニーズに基づく人材育成

■国際化

- 欧米や東アジア・東南アジア地域の大学、研究機関等との研究者・学生の交流
- さくら招へいプログラム、国際シンポジウムの開催
- リモートによる海外からの講義の実施

高エネルギー医学研究センター

高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進

サイクロトロン及びポジトロンCT・磁気共鳴（PET/MRI）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進しています（米国ワシントン大学や量子科学技術研究開発機構と学術提携）。国内有数の一体型PET/MRI装置を用いた最先端分子イメージング研究では世界的にもこの分野をリードしています。

■PET分子イメージングの包括的研究を推進

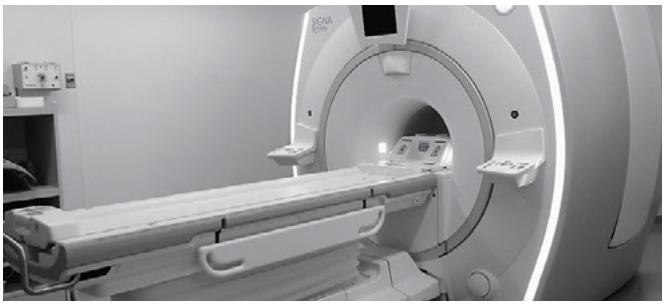
- 新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- PET/MRIを用いたがんの診断・治療に関する臨床研究
- 脳PETやMRI画像を用いた神経変性疾患の病態研究
- 画像と治療を融合したセラノスティクス研究

■医工連携による産学官共同研究

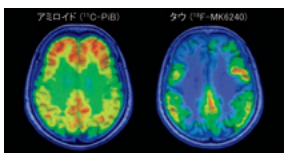
- パナソニックライフインフォマティクス共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践

■画像医学研究を担う人材の育成

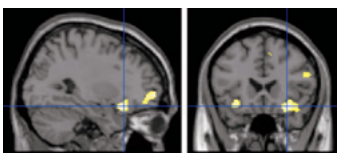
- 医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育
- 海外留学生の大学院教育、国際ワークショップ等による医療画像分野での国際貢献



世界有数の最新型PET/MRI装置



脳PETを用いたアルツハイマー病の脳画像



学童～思春期に年齢とともに活動が変化する脳領域（カラー）

■子どものこころの発達研究センター・精神医学講座との共同研究

- 機能的MRI（fMRI）を用いた脳発達に関する機能画像研究
- 自閉スペクトラム症の世界的脳機能画像研究機関として病態解明に貢献

遠赤外領域開発研究センター

高出力遠赤外／テラヘルツ波分野における世界的拠点

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進しています。

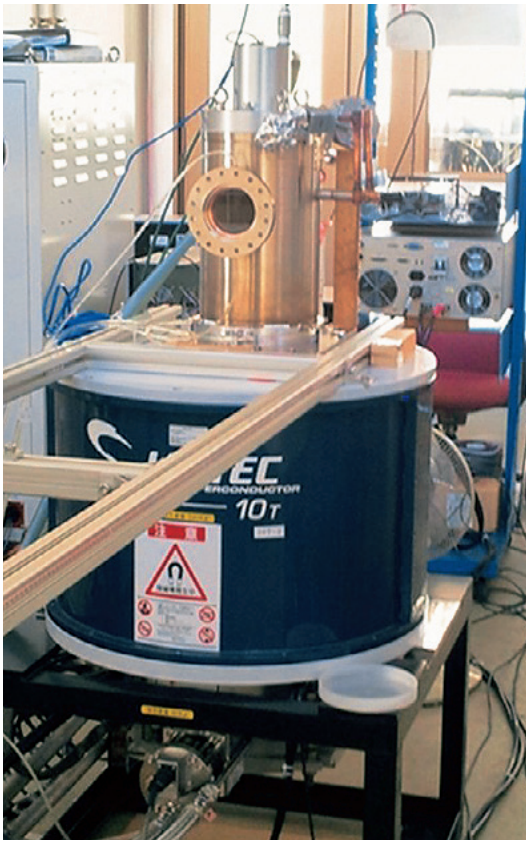
■遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- 高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンエコー測定装置の開発

■国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- 国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開（国内外11機関との学術交流協定、国内外9機関との共同研究覚書を締結）

遠赤外技術に関する国際会議（福井大学で開催）



電磁波発生装置「ジャイロトロン」

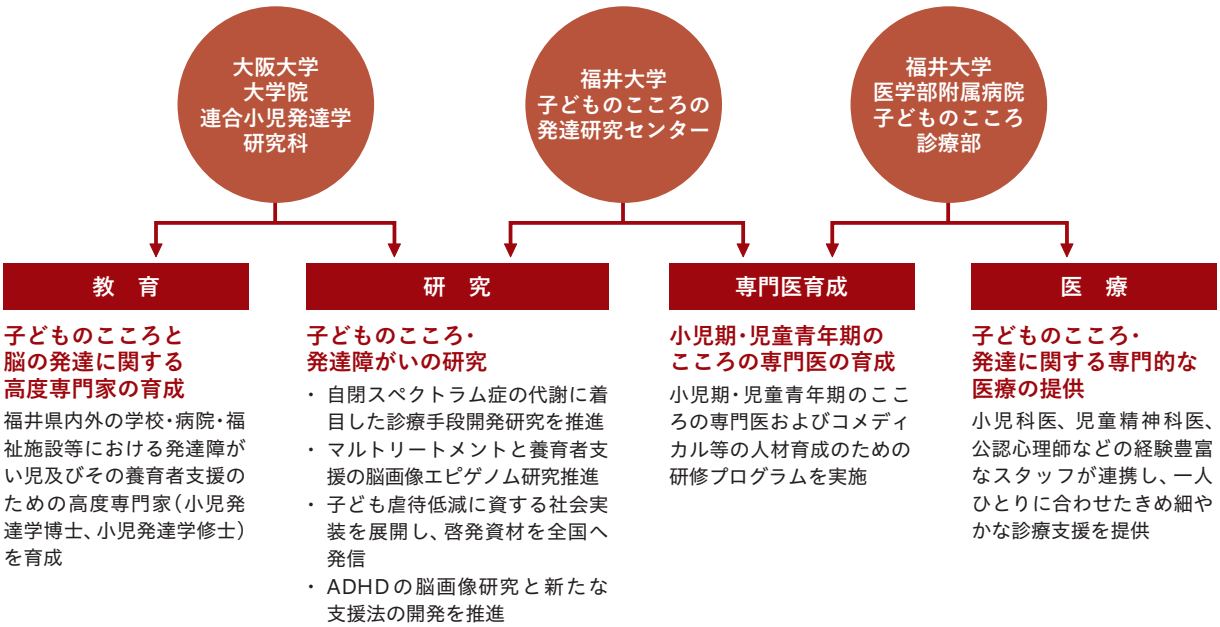
子どものこころの発達研究センター

子どものこころに取り組む

少子化が進む中、発達障がいを含むこころに問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学の「子どものこころの発達研究センター」では、分子生物学技術やイメージング技術を駆使した脳機能の解明に取り組むとともに、新たな発達障がいの診療技法の開発を目指した研究を展開しています。附属病院「子どものこころ診療部」では、小児期・児童青年期のこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、養育者に目を向けた取組を実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、研究成果を教育に還元する目的で大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合による大学院「連合小児発達学研究科」では、2024年度より博士前期課程を新設し、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題に従事する人材の育成に取り組んでいます。



繊維・マテリアル研究センター

繊維・マテリアルに関する研究の推進

本学の重点領域である繊維・マテリアル分野について、学術面と地域産業の発展に寄与すべく、教育・研究を推進しています。

■繊維・機能性材料工学分野の基礎研究・開発の推進

- 学内研究プロジェクトの実施、若手研究者を積極的支援
- 研究成果の発信（研究発表会、年報の発刊、展示会出展などでアピール）
- カーボンニュートラルに寄与する次世代繊維・マテリアル研究拠点形成を目指し、繊維・マテリアル分野を基軸としたカーボンニュートラル分野の研究推進

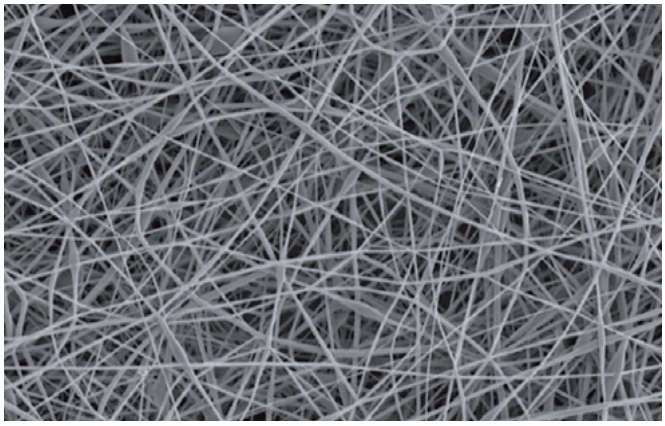
■県内外の研究機関や企業との共同研究の推進

- 専任教員が企業等との共同研究の可能性を調査し、共同研究を強力に推進
- 福井県工業技術センターや県内企業技術者との定期的な交流

■研究プロジェクト実績

- NEDO事業「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー（CNF）関連技術開発」：研究テーマ「多様な製品用途に対応した有害性評価手法の開発と安全性評価」（産業技術総合研究所と共同実施）
- AMED「ウイルス等感染症対策技術開発事業」：研究課題名「ウイルス感染を防止する低圧力損失マスク・フィルターに関する研究開発」

北陸ヤーンフェアに出展

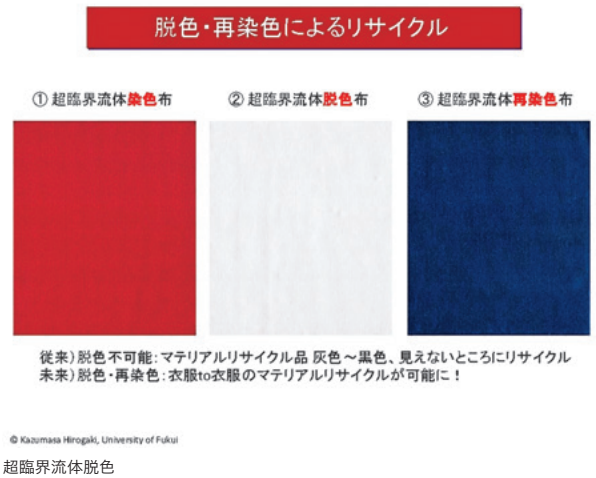

フィルター応用に期待されるナノファイバー

TOPICS

水を使用しない超臨界流体脱色技術で100%に迫る脱色率を達成

本学産学官連携本部は、福井の豊かな産業とくらしを支えてきた繊維産業を未来に続くものとするため、フクの未来を創るプロジェクト「フクミラ」を推進しています。この度、本事業の研究開発課題のひとつ、水を使わない染色「超臨界流体染色」技術で染色した繊維を使い、世界で初めて100%に迫る脱色を実現しました。（2024年9月30日に特許出願【特願2024-171507（日本）】）

この研究成果により、染色したものを脱色し、また染色して再利用することが可能になり、繊維産業の構造変革の布石になることが期待されます。



超臨界流体脱色

附属病院基本方針

新しく優しい医療をあなたのもとへ

■県内で唯一の特定機能病院として高度医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受け入れています。
安全で質の高い医療を提供するとともに先進医療の促進、若手医師の臨床研究への積極的参画の推進を図り、先進医療技術の地域医療への展開を目指しています。

■大学病院初の北米型ER救急体制

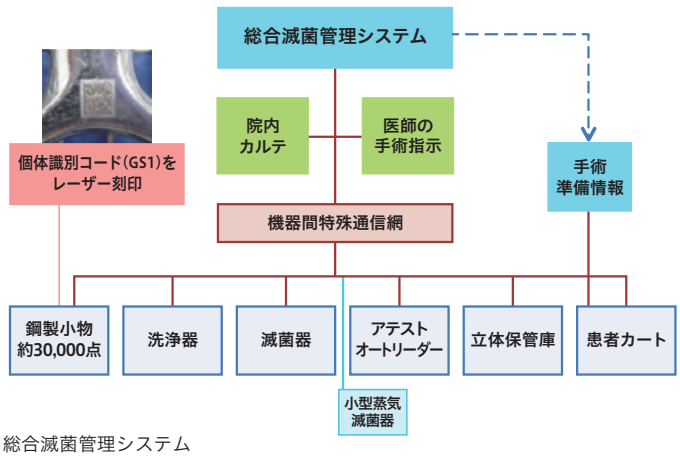
軽症の一次救急から高度の専門的な治療が必要な三次救急まで、全ての患者を365日24時間体制で受け入れています。救急部と総合診療部の合体運営により患者のニーズに応じた救急初期診療を実践しています。

■パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)と「看護総合力育成プログラム」の実現

- 本院看護部が開発した独自の看護体制(PNS)を全病棟で導入。二人の看護師がパートナーを組み、患者さんに安全で質の高い看護ケアを提供します。
- 卒後3年間は、看護総合力育成プログラムに沿った段階別研修と育成チームによる支援体制により看護師として必要なスキルを習得します。

■労働生産性・安全性の向上と働き方改革の実現:手術器具の「総合滅菌管理システム」を開発・導入

約32,000点の手術用鋼製小物の洗浄・滅菌から術後回収まで一元管理を行い、器材のトレーサビリティを確保することで、安全性向上、ワークフローの効率化による人件費削減、労働時間の短縮による看護師らの働き方改革に貢献するなど大きな成果を上げています。これらの成果は全国的な評価を受け、「MCPCaward 2019」で総務大臣賞、「看護業務の効率化先進事例アワード2019」で特別賞を受賞しました。



総合滅菌管理システム

全ての患者を受入れ“地域医療の砦”として迅速に対応

二人一組のチームで看護ケアを行う

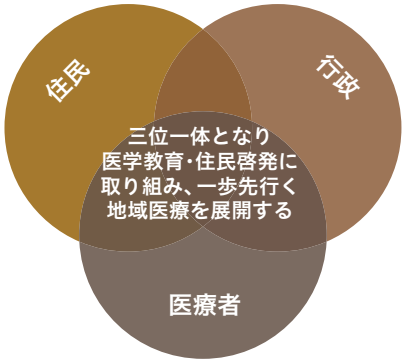
TOPICS

福井県摂食障がい支援拠点病院として

福井大学医学部附属病院が、福井県から厚生労働省事業「摂食障害治療支援センター設置運営事業」における「摂食障がい支援拠点病院」の指定を受け、令和5年10月2日より福井県摂食障がい支援拠点病院として活動を開始し、1年が経過しました。

福井県摂食障がい支援拠点病院では、摂食障がい治療支援コーディネーターを配置し、地域の摂食障がい患者さんの症状に早期に気づき、対応を行い、遅延なく急性期治療を進め、慢性期・回復期を支援するなど、摂食障がいに対する総合的な対策を福井県地域全体に行っていきます。

地域医療の担い手の育成



■地域の医師は、地域が育て、地域が守る

医学部地域プライマリケア講座では、高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成しています。

・外来診療をはじめ救急診療、在宅医療、健康相談
・医学生・研修医教育だけでなく町民の皆様への啓蒙活動
・医療システムの研究や健康動態の調査

■福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備しています。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化します。

・医学生・看護学生、医師、看護師等医療従事者の実技研修
・多職種連携トレーニング
・救急対応の標準化
・県内医療従事者の生涯教育の充実

縫合と結紮の基本(実技)の様子

■臨床教育研修センター

「次世代を担う医療人を育むために」をテーマに、卒後臨床研修の円滑な実施を始めとし、学生・医師・看護師および医療従事者の方に技術や知識を修得する場を提供することを目的に設置されました。

・本院で研修する初期臨床研修医の勉強・交流の場
・院内外の医療従事者を対象としたセミナー・講習会の開催

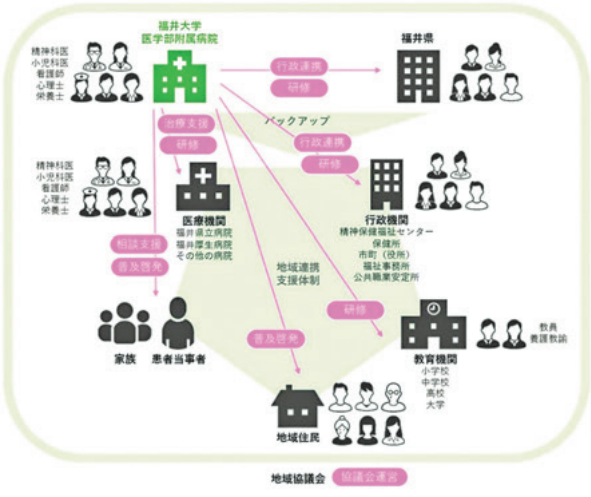
初期臨床研修医向けコアレクチャーの様子

の活動について

■具体的な業務

(1)摂食障がい患者およびその家族への専門的な相談、治療及び回復支援[相談支援]
(2)摂食障がい診療を行う医療機関等への助言・指導[治療支援]
(3)関係機関(精神保健福祉センター、保健所、市町等)との連携・調整[行政機関連携]
(4)医療従事者、関係機関職員、摂食障がい患者およびその家族への研修の実施[研修]
(5)摂食障がい患者およびその家族、地域住民等への普及啓発[普及啓発活動]
(6)摂食障がい対策推進協議会の運営[地域協議会]
(7)協議会で定めた指標に必要な数値等の集計・整理[集計整理]
(8)その他摂食障がい対策に必要な事項[その他]

福井県摂食障がい支援拠点病院と関係機関との連携図



産学官連携本部

産学官でイノベーションをハイブリッド推進

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

■「ひとつ屋根の下」の協働

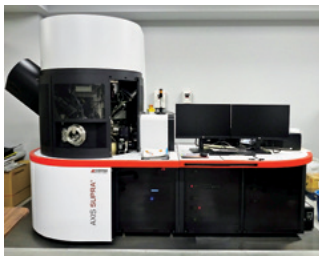
「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進。さらに自前でも、新しい先端機器を続々と配置。

「オープン R&D ファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進。

コンサルティング



機器№3-51.X 線電子分光分析装置（XPS）

■イメージを「見える化」する試作

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し。さらに、市場の反響を見て、事業として一歩踏み出す活動も。

〈ILF における試作品の例〉

浅井戸・加圧給水用ポンプ

油管理計

■「知」の創出を支援する専門人材

「URA（リサーチアドミニストレーター）」

URA は、大学を基軸に知的創造サイクルを回すエンジンとして、研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを通し、研究の卓越性を推進します。さらに、研究現場における産学の情報集積、機器分析を通じた人材育成、技術相談等を行う T-URA（T は Technology,Training,Transfer 等を意味する）、研究の社会実装等の促進を図る M-URA（M は Medical を意味する）、研究の知的資産を本学のブランドの価値向上につなぐ P-URA（P は Promotion を意味する）を通して、知的創造サイクルの高度化を図っていきます。

■オープンイノベーション活動の推進

「未来共創テキスタイルセンター」

経済産業省の令和４年度産学連携推進事業費補助金「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」の採択を受け、令和６年12月に「未来共創テキスタイルセンター」を竣工しました。本学が強みを有するテキスタイルの染色、整理、脱色等の先端的な取り組みや、各種試作・評価技術について、地域企業等へのオープンイノベーションを加速するとともに、福井県が主導する「ふくいオープンイノベーション推進機構（FOIP）」を中心に、福井県立大学、福井工業大学、福井高専、福井工業技術センター、地域金融機関、さらには産業技術総合研究所等とも連携を図り、地域に新しい価値を持続的に生み、育てるための拠点の形成を目指します。

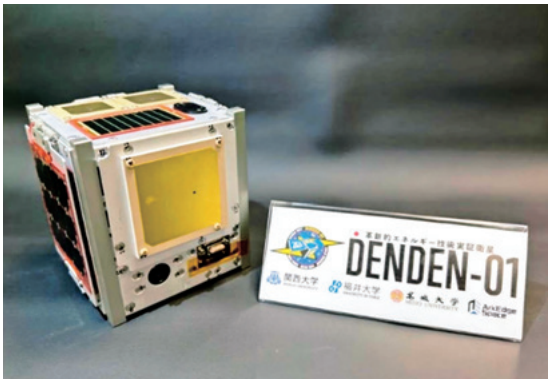
オープンイノベーション区画「IF-Studio」

TOPICS

超小型衛星「DENDEN-01」を共同開発 ISS から放出され通信に成功

本学と関西大学、名城大学、宇宙開発ベンチャー企業の株式会社アークエッジ・スペースは、超小型衛星「DENDEN-01」を共同開発しました。DENDEN-01は、本学産学官連携本部の青柳賢英准教授とセーレン株式会社が共同開発した衛星教育用教材「EDIT（Educational satellite for Idea and Techniques）」をベースに開発。本学と福井県、ふくい宇宙産業創出研究会などが進めている宇宙教育プログラムにより完成した初めての超小型衛星です。

DENDEN-01は、日本時間2024年12月9日20時17分に「きぼう」日本実験棟／国際宇宙ステーション（ISS）から無事に放出され、衛星との通信に成功しました。計画している様々な実証実験を通じて、特に人工衛星のエネルギー技術への貢献が期待されています。



DENDEN-01の外観

地域が必要とする人材を育成

■自治体・関係機関等との連携

2022年度、福井県の主導のもと設立された「未来協働プラットフォームふくい」に参画し、プラットフォームの下に設置された各部門において、地域社会の維持発展を図る取組を推進する具体的な検討や事業に取り組んでいます。
また県内8校の全ての高等教育機関が参加する協議体「FAAふくいアカデミックアライアンス」において、福井における様々な地域課題に各高等教育機関が持つ特色ある知を活かした4つの部会（入学者確保部会、地元定着部会、協働教育部会、教養共同化部会）を設け、活動を展開しています。このFAAによる取組の1つに「ふくい地域創生士」の認定があります。福井というフィールドで学び、自分を知ることにより「地域に貢献できる人材」を認定する制度です。

2023年度「ふくい地域創生士」認定証授与式・「ふくい地域創生アワード」表彰状授与式の様子（「Fスクエア」HP"FAA教養共同化部会"記事より）

福井大学では2023年度までに
「ふくい地域創生士®」296名を認定、
「ふくい地域創生アワード」15名を表彰しています。
※「ふくい地域創生アワード」とはふくい地域創生士の中から、地域の課題解決に繋がる顕著な業績をあげた学生を表彰するものです。

FAAふくいアカデミックアライアンスの情報を「Fスクエア」ホームページ（FAAの概要）にて公開中です。
http://www.allfukui-cocp.jp/

■地域創生推進本部における人材育成

「地域創生推進本部」は、産学官金と連携して、地域重視の研究の強みや特色を最大限に活かし、持続的な社会の発展に寄与するため、地域で必要とされる人材の育成及び社会貢献を支援・推進しています。2022年度には、新たに「創生人材センター」と「嶺南地域共創センター」を設置し、嶺南地域を実装の場として多職種連携教育の実現に向けた取組を推進しています。
これまで文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」で培ったノウハウとネットワークをベースとし、本学における地域貢献活動や地域協働の取組の中核として、地域協働・共創活動を推進していきます。

■嶺南地域共創プロジェクト

本学では、2022年度から始まった第4期中期目標期間において、福井県・嶺南2市4町と本学が連携し、包括的に地域課題解決を行う「嶺南地域共創プロジェクト」の実施を柱の一つとして掲げています。本プロジェクトでは、嶺南地域を実装の場として、地域課題解決に向け、4学部がそれぞれの専門性に軸足を置きつつ緊密に連携し、課題解決プロジェクトを軸とした、職種の違いを超えて包括的に課題に対処できる資質・能力を培う多職種連携教育、及び専門教育で培った知識・スキルを社会生活とリンクさせるための実践的教育を展開します。これらの「社会共創教育」の展開により、包括的に課題に対処できる資質・能力を持った卓越高度専門職業人を養成するとともに、社会変革につながるイノベーションの創出を主導します。

■地域を拠点に活躍するグローバル・リーダー人材育成の取組

本学は、世界に通用する専門能力を備えた人材の輩出のため、2024年度からグローバル・リーダー人材育成のための新たな国際教育モデル構築を進めています。本取組では、グローバル・エンゲージメント推進本部及びグローバル人材育成研究センターを新たに設置し、学内のグローバル・マネジメント体制を強化し、外国人留学生の受入から国内定着及びグローバル・リーダー人材の輩出までを一貫して行う人材育成の実現を目指します。本取組の実施にあたっては本学がこれまで培ってきた国際教育の実績と成果を駆使するとともに、学内のグローバル活動を集約し参加学生にポイントを付与する「福大グローバル・リーダーシップ・プログラム（UF-GLP）」をプラットフォームとし、福井県の文化・教育・産業への理解促進、国際学修・協働環境の整備、並びに地域社会と外国人留学生・日本人学生の交流推進等を通じて、国際的な交流活動による未来創造の好循環を創出していきます。

UF-GLP
University of Fukui
Global Leadership Program

福井大学における SDGsへの取組

～1つのゴールは 複数のゴールに繋がっている～

本学ではSDGsの17のゴールのうち6つのゴールを優先課題として取り上げ、学内の関係部局と連携してゴールを達成するため2022年4月に「SDGs推進室」を設置しました。推進室では、様々な活動を企画及び実施し、SDGsの推進に取り組んでいます。

国際貢献

■国外機関と連携した国際的教育実践研究

OECDやJICAと連携し、NIE（National Institute of Education）やWALS（The World Association of Lesson Studies）と協働で、「学校拠点方式」による教員養成と教師教育を世界展開します。
2024年7月、教員研修や教員養成研修に携わっている教育行政官や教員など、マラウイから3名を受入れ、同年10月、11月には、エジプト、マラウイ、ウガンダなどのアフリカ諸国に連合教職開発研究科教職員7名を派遣し、アフリカ圏の教育の質向上を支援する研修事業を行いました。

少人数グループでのディスカッションの様子

■エジプトの教員の能力強化を目的とした人材育成事業

連合教職大学院では、エジプトの教員の能力強化を目的とした「エジプト・日本教育パートナーシップ」の人材育成事業により、2018年度から合計680名の教員を研修員として受入れます。
2024年にはプログラム受講生計160名が本学を訪れ、教育学部附属義務教育学校や福井市公立学校で学校行事や授業を参観。協働探求型の研修により、子どもたちを中心とした日本の教育活動を学びました。
この他、本学教員がエジプトの現地を訪れ、帰国後の取組をフォローアップするなど、包括的な支援を行っています。

附属義務教育学校での参観

TOPICS

企画力・コミュニケーション力等の能力向上を図る事務局企画力向上プロジェクトチーム（JKK）

「かつやまWakuWaku文化フェスタ2024」に多文化交流体験ブースを出展

本学の留学生を含む学生14名とJKKのメンバーは、勝山市と連携し、11月3日に開催された「かつやまWakuWaku文化フェスタ2024」に多文化交流体験ブースを出展しました。

近年、勝山市で働く外国人が増えてきていることから、地域住民がその国の文化を知り、理解を深めるきっかけになればと企画。勝山市に住む外国人の母国文化を紹介するパネルの展示や、外国住民らによる衣・食・住・遊びに関するワークショップを行い、幅広い世代の来場者が多文化交流を楽しみました。

会場の様子

～足羽山をバズらせる!プロジェクト～「足羽山ランタンナイト2024」を開催

本学の学生8名とJKKのメンバーは、一般社団法人足羽山こどもとあそぶLabと連携し、足羽山のにぎわい創出を目指した「足羽山をバズらせる！プロジェクト」の一環として、10月19日に「足羽山ランタンナイト2024」を開催しました。

足羽山の廃竹林の問題を知ってもらうきっかけにしたいと、伐採した足羽山の竹でランタンを制作し、夜の足羽山を彩りました。

竹ランタン点灯時の様子

就職率17連覇

教育学部 98.9%　医学部 95.0%　工学部 98.3%　国際地域学部 100.0%

■高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング2024」において、
本学は複数学部を有する国立大学では17年連続全国1位となりました。

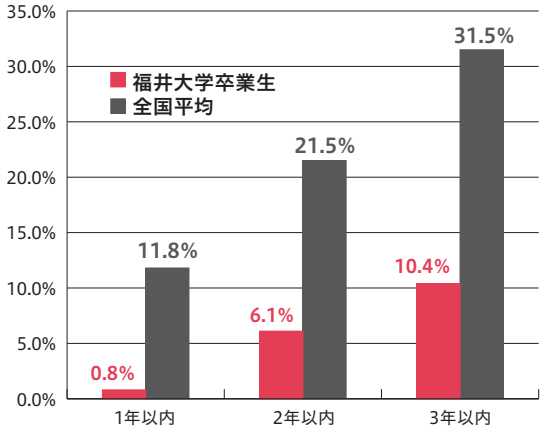
福井大学実就職率（実績）

年卒	本学全体	教育学部※1	医学部	工学部	国際地域学部※2
2023	98.4	98.8	96.9	98.7	93.3
2022	96.7	95.7	97.0	95.0	88.7
2021	97.2	95.6	97.1	96.1	93.0
2020	97.9	98.8	98.1	95.6	98.0
2019	97.0	99.3	88.5	97.6	–
2018	97.3	98.0	93.0	98.5	–
2017	97.4	97.0	94.8	97.6	–
2016	96.8	91.7	94.4	98.1	–
2015	96.1	92.2	96.2	96.4	–
2014	96.7	98.5	96.2	94.5	–
2013	95.8	90.1	96.8	93.7	–
2012	95.8	92.3	95.0	96.6	–
2011	94.7	93.3	97.6	90.2	–
2010	94.3	91.0	95.8	93.4	–
2009	97.2	98.7	98.0	97.0	–
2008	95.3	94.9	93.5	96.7	–

※1：2019年までは教育地域科学部の実就職率を掲載
※2：2016年度新設

■低い離職率！

在職期間3年以内の離職率（10.4％）は全国平均（31.5％）を大幅に下回っており、企業からはその高い定着率が評価されています。



全国平均については、平成31年（2019年）3月卒業者のデータを掲載している。
厚生労働省HP資料新規大卒就職者の離職状況（平成31年3月卒業者）
（2022年10月28日公表）
https:/ /www.mhlw.go.jp/ content/11805001 /001005628.pdf

福井大学が就職に強い理由 ～キャリアセンター（キャリア支援課）の取組～

社会的に自立し、社会を創造していける人材育成に力を入れ、キャリア・就職支援活動を強力にサポート。
福大生は就職先から人間力・学力ともに高く評価されています。

■学生を支え、企業を応援する充実した就職支援・採用支援体制

年間50回以上の就職ガイダンスや学内合同説明会を実施しています。

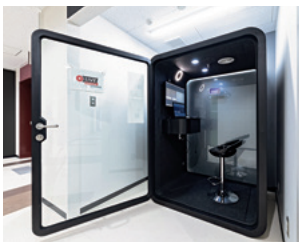
■柔軟できめ細やかな就職支援活動の実施

- 専属のカウンセラー（3名）が常駐して、就職相談・履歴書添削・面接練習などを行っています。
- 各学部・大学院の就職担当教員との強い連携による支援体制を整えています。
- 企業・団体の求人情報をはじめ、先輩の就職体験記をWEBで確認できる就職支援サイト「キャリアサポートシステム」を運用しています。
- 自己分析のサポート及びAI面接の体験のため、AI面接サービスをいち早く導入しました。

■積極的なキャリア支援の実施

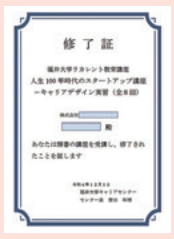
多様化する就職活動の中で、対面やWEB、電話での就職相談を行っており、ハイブリッドで柔軟かつ継続的な支援活動を実施しています。また、WEB面接に対応できるように、テレワークブースを設置し、学生に貸出しています。

スマホを利用したAI面接


テレワークブース

キャリア教育の充実

学生が自身のキャリアについて深く考え、自立した人間として成長することを目的として、キャリア教育にも力を入れています。
キャリア教育プラットフォームプログラムの構築を目指し、共通教育科目「キャリアデザインA,B」「インターンシップF」の開講と併せて、共通教育「キャリアデザインC」とリカレント教育講座を共同開講する取組を行っております。



リカレント教育修了証授与

福大プラットフォーム

福井大学では、「エンゲージメント」をキーワードに、福井大学の卒業生、在学生、教職員（OB含む）がオンラインで繋がり、自由に交流することができる大学公認クローズドSNS「福大プラットフォーム」を開設しています。特に卒業生の皆さんは母校と繋がり、福井大学に関するイベント情報を享受したり、同窓生同士、在学生との交流など、様々な形で繋がり続けることができます。関係の皆様は、ぜひご登録ください。

詳細は、福大プラットフォームのHPをご覧ください。
https://u-fukui-platform.com/

福井大学基金 ～羽ばたけ基金® ～

福井大学基金では、学生の修学支援及び人材の育成・輩出や地域社会の継続的発展のためのご支援をお願いしております。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。
（クレジットカード決済でのお申込が便利です。）

「リサイクル募金」「ふるさと納税」によるご寄附もよろしくお願いいたします。

◆リサイクル募金は、寄附者の方からご提供いただいた古本等を業者が換金し、その金額が福井大学基金に寄附されるものです。

◆福井県のふるさと納税「県内大学の魅力向上応援」を活用したご寄附については、「ふるさと福井応援サイト」ホームページをご覧ください。

詳細は、福井大学基金のHPをご覧ください
https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/

情報配信サービス
connect Ufukui（コネクト・ユー・ふくい）
福井大学の旬なニュースを、旬なままお届け！

福井大学広報センターでは、大学の研究や教育活動、イベント等の情報を通じて、在学生やご家族、地域、同窓生、高校生のみなさまとつながりを深めるため、情報配信を行っています。本システムは画像なども含まれたHTML形式で配信します。ぜひご登録ください！

登録はこちら https://forms.gle/e2QnQizwos1saEg48

各種SNSはこちら

Facebook　Instagram　X

［表紙デザイン］
福井大学教育学部4年　板垣　紗知（いたがき　さち）
コメント：水彩では意図せずに特徴的な面白い形が浮かびあがってくることがあります。本表紙ではウェットインウェットの技法により、絵の具を重ねて生まれたにじみを活かして「特色ある」デザインに仕上げています。

学生交流スペース「木立ちの広場」

学生のキャンパスライフの質を向上させるため、福井大学基金を活用し、学生のデザイン案を基に設計・建設された学生交流スペース「木立ちの広場」がオープンしました。
学生の学びの場となるキャンパスの中心に整備された屋根付き2階建ての広場は、学生同士が自由に活動し、交流を深めるための開放的な空間となっています。1階に2箇所の休憩室とサークル発表が可能な交流スペースを設置し、2階には眺めの良い場所に食事や読書、友人との談話が可能なテラス席を設けました。今後、この広場が学生の成長や交流の場となり、学生たちに活用され、長く愛されることを期待しています。

研究者総覧をご存じですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者（教員）情報を検索できます。所属組織・職名・氏名に加え、キーワードや研究分野検索もできます。是非ご活用ください。

https://r-info.ad.u-fukui.ac.jp

国立大学法人 福井大学

福井大学の特色ある取組2025

発　行　福井大学経営企画部経営戦略課
発行日　2025年4月1日

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL：0776-23-0500（代表）
HP: https://www.u-fukui.ac.jp/